

癒しとサッカー



アロマセラピスト
元アルビレックス新潟 選手
古俣健次さん

文-斎藤慎一郎 写真-鈴木新作

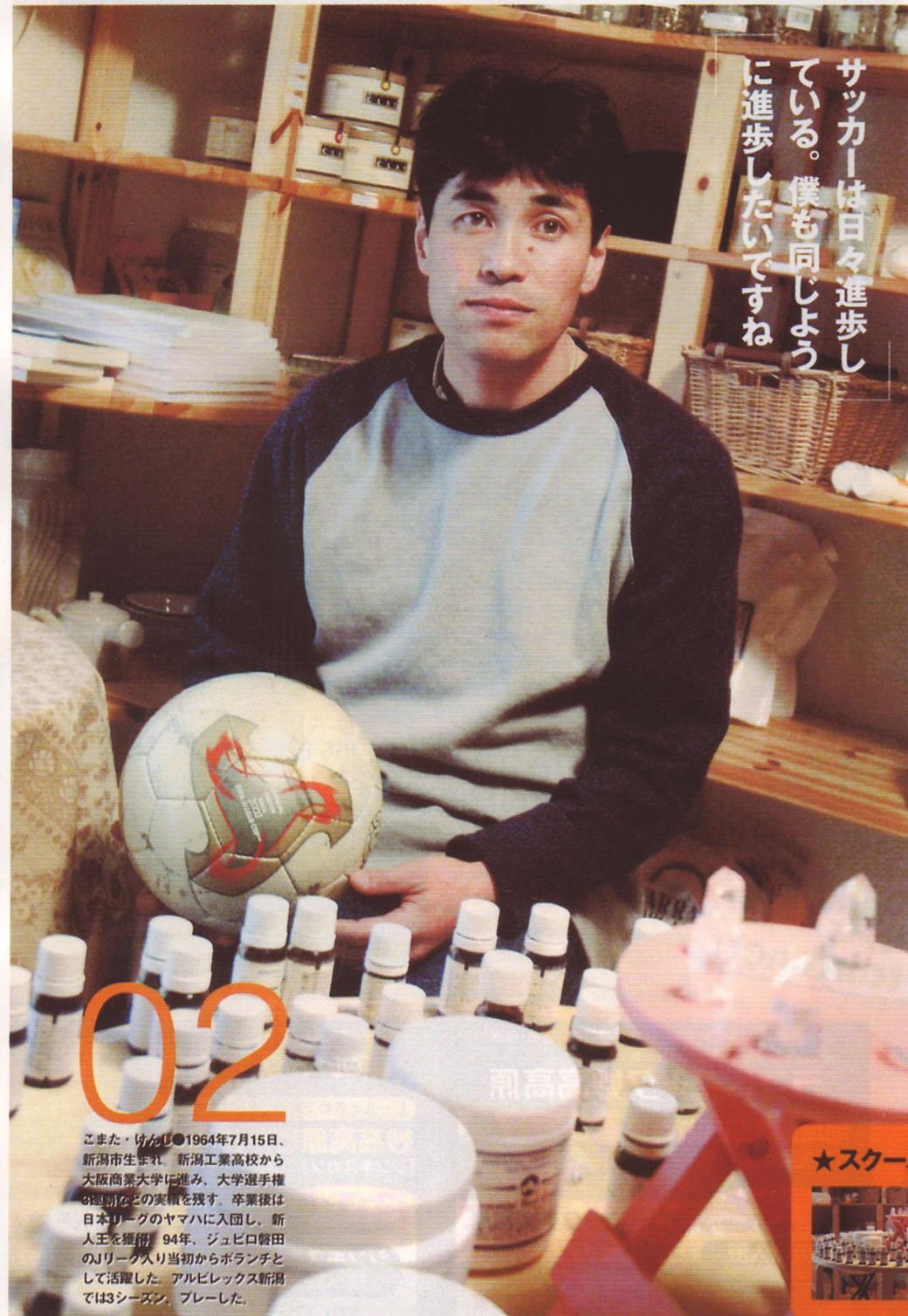
ほんのりと漂うアロマオイルの香り。仕事場に流れるリラクセス系の音楽。ソフトな語り口がその雰囲気にすっかり溶け込んでいる。「もう4年目になりましたかね」「そう言って笑う。ただ、数年前の彼の仕事では、この笑顔は必要とされていなかった。ピッチで厳しいチェックをみせ、相手をマークし封じ込める。現在のJリーグ王者・ジュビロ磐田で「エース殺し」の異名を取った名ボランチ。そして引退前の3シーズンは、いぶし銀のプレーでJ2昇格前のアルビレックス新潟

を支えた。そんなピッチの職人は今、人々に安らぎを与える仕事をしている。自宅の一室でアロマセラピー関連の仕事をはじめた。カルチャースクールとしてアロマを教える。実際にお客さんに頼まれアロマセラピーをすることもある。「効能については奥が深い。まだまだ僕らも研究段階なんです」。対象を追いかけける姿勢はJリーグ時代と変わっていない。高校、大学、そしてJリーグと県外でプレー。95年、首の骨折で磐田を退団するとき、当時はまた

北信越地域リーグに所属していたアルビから誘いが来る。「正直、サッカー選手として新潟でプレーできるとは思っていなかった」。現役として最後を捧げる場が古里になった。力を出し尽くし、98年、J2参戦を前に引退した。「やることはやった。選手として悔いはない」と言う。磐田からやってきたころ、単なる地域リーグなのに1000人単位の観客が集まるアルビの状況に驚いた。「これは将来何がかわるなって、思いましたね」。ピッグスワンを埋めつくす4万人の大

観衆。その予兆を知っているから当然のことと受け止められる。首の故障をしたときに治療で行ったのがアロマとの出会いだった。サッカーとは違う世界に身を置いているように見えるが、「サッカーの延長ですよ」とサラリ。「アロマセラピーという分野でサッカーの役に立てれば、と思っっているんです」。やることをやりきった。だから違う関わり方も分かった。アルビが新潟に根付きつつある。「OBではなく、一サッカー人として支援できれば」と謙虚に笑った。

サッカーは日々進歩している。僕も同じように進歩したいですね



02

こまた・けんじ●1964年7月15日、新潟市生まれ。新潟工業高校から大阪商業大学に進み、大学選手権(全日本)などの実績を残す。卒業後は日本リーグのヤマハに入団し、新人王を獲得。94年、ジュビロ磐田のJリーグ入り当初からボランチとして活躍した。アルビレックス新潟では3シーズン、プレーした。

★スクール・オブ・アロマセラピー「Freedom」



アロマセラピストの養成、カルチャースクールでの生徒指導、各関連用品の販売を行っている。
〒951-8502 新潟県西蒲原郡刈羽町美里420-27
☎ 0256-86-3379 FAX 0256-86-3469
※ 13時～22時
※ 月曜(事前に連絡があれば営業可能)